

**「第六次多摩市総合計画」における基本構想案について  
(説明資料)**

## 第1章 新たな基本構想策定の背景

### (修正前)

○ 多摩市は、昭和 46 年の市制施行から 5 次にわたる総合計画・基本構想のもとでまちづくりを進め、令和 3 年に市制施行 50 周年を迎えました。市制施行当時、のどかな農村風景を色濃く残していたまちは、ニュータウン開発に伴い大きく変貌し、まちには様々な地域から多くの人々が移り住んできました。そうした人々と以前からこのまちに住み続けてきた人々により、温かい心のかようコミュニティが形成され、市民協働による地域社会づくりを進めながら成長してきました。

### (修正後)

○ 多摩市は、昭和 46 年 (1971) の市制施行から 5 次にわたる総合計画・基本構想のもとでまちづくりを進め、令和 3 年 (2021) に市制施行 50 周年を迎えました。のどかな農村風景を色濃く残していたまちは、**民間事業者による宅地開発やニュータウン開発等**に伴い大きく変貌し、まちには様々な地域から多くの人々が移り住んできました。そうした人々と以前からこのまちに住み続けてきた人々により、温かい心のかようコミュニティが形成され、市民協働による地域社会づくりを進めながら成長してきました。

➡ 既存地域の団地の民間開発が行われ、その後ニュータウン開発が進んだという表現に変更。

### 【関連する委員意見】

・「ニュータウン開発」という言葉だけだと多摩市全体を見ていないと感じる人が一定数いる。

### (修正前)

○ しかし、時代は大きく変わっています。平成 23 年 3 月に発災した東日本大震災や令和元年東日本台風 (台風第 19 号) など私たちの予想を超える災害が頻繁に起きるようになっていきます。そして、令和 2 年に発生した新型コロナウイルス感染症は、私たちのライフスタイルや価値観を一変させました。さらに、令和 4 年 2 月に起こったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、世界の平和を脅かすとともに私たちの生活にも様々な影響を及ぼしています。

### (修正後)

○ しかし、時代は大きく変わっています。平成 23 (2011) 年 3 月に発災した東日本大震災や令和元 (2019) 年東日本台風 (台風第 19 号) など私たちの予想を超える災害が頻繁に起きるようになっていきます。そして、令和 2 (2020) 年に発生した新型コロナウイルス感染症は、私たちのライフスタイルや価値観を一変させました。さらに、令和 4 (2023) 年 2 月にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻が発生し、**戦争のない平和な社会が人々の努力によってはじめて維持されていることを再認識させられました。**

➡ ロシアによるウクライナ侵攻は平和を再認識するきっかけとして表現。

【関連する委員意見】

- ・「ロシアによるウクライナ侵攻」の記載について、平和に関する記載することは大事なことだが、それまでずっと平和でいきなりこれが起こったというより日本がそこまでの影響を受けていなかったという面もある。

(修正前)

○ 私たちは、このような複雑で予測困難な時代にあっても、明るい未来を志向し様々な課題に柔軟に取り組んでいかなければなりません。このため、持続可能なまちの実現を目指し、これから10年間のまちづくりの羅針盤として新たな基本構想を策定するものです。

(修正後)

○ 私たちは、**これまでも様々な課題を一つ一つ乗り越え、その積み重ねによりまちを豊かにしてきました。**現在の**ような**複雑で予測困難な時代にあっても、**長期的な視点を持ちつつ、**明るい未来を志向し様々な課題に柔軟に取り組んでいかなければなりません。このため、持続可能なまちを実現する**ための羅針盤として10年間を展望した**新たな基本構想を策定するものです。

- ➡ 第一次から第五次総合計画までの課題を解決してきた積み上げにより、まちを豊かにしてきた表現を追加。
- ➡ 「長期的な視点を持ちつつ」といった文言を追加。
- ➡ 基本構想の計画期間の10年間を記載。

【関連する委員意見】

- ・基本構想は第一次から第五次までの課題を解決してきた積み上げがあり、重ねてきたことでまちを豊かにしているため、フレーズを加えたらどうか。
- ・少子高齢化問題や市の運営は10年だけを見ていくのでは遅いと考える。完全に見据えることはできないかもしれないが、長期的視野で見る必要がある。
- ・長期的な予測をする場合、具体的な目的があるときは不確実であっても一言入れておく必要があると考える。

## 第2章 まちづくりの基本理念

### (修正前)

#### 2 平和で豊かなまちを次代へ継承

太陽の光あふれ、みどり豊かなこの多摩市は、先人たちが築いてきたかけがえのないまちです。

そして、その礎となっている平和もまた、人々の平和を希求する強い思いによって保たれています。私たちはそのような平和の中で市民の一人ひとりが等しく尊重され、様々な市民の取り組みにより培われ、受け継がれてきた環境、文化などの財産をより良いものとし、将来の子どもたち・若者たちへ引き継いでいくために、これまでに進めてきた市民主体のまちづくりをさらに広げ、みんなでこのまちを守り、育てていきます。

### (修正後)

#### 2 平和で豊かなまちを次代へ継承

太陽の光あふれ、みどり豊かなこの多摩市は、先人たちが築いてきたかけがえのないまちです。そして、その礎となっている平和もまた、人々の平和を希求する強い思いによって保たれています。

**今を生きる私たちは、**市民の一人ひとりが等しく尊重され、様々な市民の取り組みにより培われ、受け継がれてきた**平和と**、環境や文化などの財産を将来の子どもたち・若者たちへ引き継いで**いかなければなりません**。これまでに進めてきた市民主体のまちづくりをさらに広げ、**より良いまちに**育てていきます。

- ➡ 平和を強調するとともに、「より良いまちに育てていきます」といった表現にすることで、平和や文化などを作っていく観点を追加。

### 【関連する委員意見】

- ・平和も文化も今ある良いものを維持するではなく、子どもたち・若者たちが新しく作っていくという観点が入るとよい。

### (修正前)

#### 3 持続可能な都市経営

気候変動をはじめとする環境問題や少子化・高齢化などの諸課題、DXの潮流などの社会情勢の変化に対して的確に対応するとともに、SDGsの理念を踏まえ、日本のみならず国際社会を意識した都市経営を進め、将来の世代に渡って豊かに暮らすことができるまちづくりに努めます。

### (修正後)

#### 3 持続可能な都市経営

自然災害のリスク、気候変動をはじめとする環境問題、少子化・高齢化やデジタル技術等の進化と活用の潮流などの社会情勢の変化に対して的確に対応し、将来の世代に渡って安全で豊かに暮らすことができる誰一人取り残されない持続可能なまちづくりに努めます。

#### ➡ 委員意見を踏まえ以下の文言を追加・変更

- ・「DX」に係る表現を変更。
- ・「自然災害」、「安全」に関する文言を追加。
- ・「誰一人取り残されない」を追加
- ・「持続可能な」を追加

#### 【関連する委員意見】

- ・DXは流行り言葉であり、3年もするとだれも言わなくなると心配している。「デジタル技術」「AIなどの急速な進化」の潮流は間違いなく続くので、それを社会に生かしていくという表現はどうか。
- ・「SDGsの理念を踏まえ」では読み手は何を言っているか分かりにくいので「だれ一人取り残さない」という言葉を入れると、平和についても含まれるのではないか。
- ・「安心」はあるものの「安全」という言葉がない。昨今、事件なども起きているため、平和で豊かに安全という言葉があってもいいのではないか。
- ・安全に絡めて、自然災害への対応も含むとよい。
- ・都市経営が踏まえるものとして、SDGsだけではよくないと考える。災害問題等を少し具体的にあげることも有効な手段だと考える。
- ・本文には「持続可能」という言葉は使われていない。結びに「持続可能なまちづくり」が入るべき。
- ・SDGsの「だれ一人取り残さない」という和訳は「取り残さない」より「だれ一人取り残されない」が正しいという意見もある。「取り残されない」の方がより優しい概念として多摩市らしいと感じる。

### 第3章 将来都市像

#### みんなが支えあい いきいきとかがやけるまち たま

この将来都市像には、障害の有無や性別、世代、人種、国籍や価値観の異なる人々や様々な団体など多摩市で活動するすべての主体が、互いを尊重し、協力しあうことを通して、それぞれが安心して自己の実現や成長に向けて踏み出すことができるまちを育て続けようという思いが込められています。

また、「いきいきとかがやける」には、多様な動植物などとも共存し、活気や生命力にあふれている状態も表しています。

- ➡ 委員意見多数であったため、上記の案を将来都市像とし、説明文を追加
- ➡ 三行目：「成長に向けて踏み出すことができる」の記載は「成長を果たすことができる」の表現と2案で検討していたが、後者は失敗が許容されない印象もあるため、前者を採用している。

#### 【関連する主な委員意見】

- ・前半の「みんなが支えあい」が「方法」を、後半が「目的」を示していて、かつキーワードを端的に反映しているため、分かりやすい。
- ・いろいろな状況下で、みんなが支えあう意識が向上し、いきいきとかがやいて生活することを目指すまちと読み取れて良い。
- ・伝わりやすく、わかりやすい。「いきいき」が入ることで、「かがやける」がより躍動的に感じる。
- ・多摩市は高齢化が進行している都市であるため、その環境だからこそ目指せることをイメージできる。
- ・目指す方向性とそのために何をすべきかが見え、かつ論理的である。
- ・「支える」という行動を起こすことを求められているように感じられ、主体的に何かを行うことができない人等は苦しさを感じるのではないか。

## 第4章 分野横断的に取り組むべき重点テーマ

➔ 委員意見を踏まえ、以下の注釈を追加

※健幸まちづくり：「身体面での健康だけでなく、それぞれに生きがいを感じ、安全・安心に暮らすことができ、子育て中であっても、障害があっても、子どもから高齢者まで、だれもが幸せを実感できるまち」の実現に向けた取り組み

### 【関連する委員意見】

- ・「健幸」で「幸」の漢字を使っているが、この言葉を使っている意図が文章から読み取れない。
- ・「健幸」を長く使っており、みんなが知っているだろうと思っているかもしれないが、初見の人もある。

## 第5章 分野別の目指すまちの姿

「分野別の目指すまちの姿」は、将来都市像を実現するための各分野におけるまちの理想像です。「分野別の目指すまちの姿」は、並列の関係ではなく、それぞれが影響し合う関係にあります。

➡ 分野別の目指すまちを説明するリード文を追加

【関連する委員意見】

・各分野の記載箇所には、これが「目指すまちの姿」との記載が無く、誤解をまねく可能性がある。

(修正前)

1 子どものそれぞれの成長をみんなで支えるまち

主な分野：子ども、学校教育

子どもや若者の権利が尊重され、その成長過程に応じて、幸せで自分らしく育ち、まちづくりへ参画し活躍できるまちが実現しています。保護者や地域のみんなが支えあう関係を築き、ともによるこびながら安心して子育て・子育てを行っています。

また、学校教育を通じて子どもたちが、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」を身に付けています。学校・家庭・地域社会の連携・協働によって、学びを支える環境が整っています。

(修正後)

1 子どもの成長をみんなで支え、**ともに生きる**まち

主な分野：子ども、学校教育

子どもや若者の権利が尊重され、その成長過程に応じて、幸せで自分らしく育ち、まちづくりへ参画し活躍できるまちが実現しています。保護者や地域の**みんながともによるこびながら子育てを支えあう**関係を築き、**安心して子どもを産み育てられる環境が整っています。**

学校・家庭・地域社会の連携・協働によって、**子どもたちの学びや育ちを支える環境が整い、子どもたちがともに学び合いながら、**確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた生きる力を身に付けています。

➡ 審議会での意見を踏まえ、主に以下のキーワードを追加。

・「産み育てられる環境」：子どもを授かっても良いと思える状態から、妊娠、出産、子育て期まで切れ目なく支える環境を表現しています。

➡ 上記のキーワード追加に伴い文章全体を整理

➡ 後段は、「学校教育」だけでなく地域や家庭の連携を表現するため文章を整理。

(修正前)

2 みんなで支え合い、安心していきいきと暮らせるまち

主な分野：健康、医療、介護、福祉

みんなが、住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく健幸的な生活を楽しみ、安心して暮らし続けられるまちになっています。

また、地域にライフステージに応じた保健、医療、介護、福祉サービスを受けられる身近な拠点が整っており、関係機関が連携しています。

さらに、年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、みんなが互いに認め合い、見守り支えあい、差別することなく助け合う関係が構築されています。

(修正後)

2 支えあいのなかで、いつまでも安心して暮らせるまち

主な分野：健康、医療、介護、福祉

みんなが、住み慣れた地域で、いつまでも健康と幸せが備わった「健幸な生活」を楽しみ、安心して暮らし続けられるまちになっています。

また、地域にライフステージに応じた保健、医療、介護、福祉サービスを受けられる身近な拠点が整っており、市民と関係機関が連携しています。

さらに、年齢や性別、障害のあるなし、国籍や価値観に関わらず、みんなが互いに認め合い、見守り支えあい、差別することなく助け合う関係が構築されています。

- ➡ タイトルは将来都市像「みんなが支えあい いきいきとかがやけるまち たま」との重複感を避けるため変更。
- ➡ 一行目：「健幸」のワードは初めて見る人が分かり易いように表現を変更。
- ➡ 審議会での意見を踏まえ、以下のキーワードを追加。
  - ・「市民と」：民生委員などの市民との連携を想定し、追加。
  - ・「国籍や価値観」：多様な価値観を認め合うことは重要であるとの委員意見を踏まえて追加。

### (修正前)

#### 3 地域で学び、活動し交流しているまち

主な分野：市民活動、コミュニティ、生涯学習・社会教育、文化

みんなが、互いの個性を認め、人権を尊重し合い、ゆるやかに交流しながら、平和で心豊かに安心して暮らせるコミュニティが形成されています。

地域の中で活動する団体や人がつながり合い、支え合えるしくみがあり、これによって、新たに活動する人が増えていく多世代共生型コミュニティが実現しています。

生涯学習・社会教育活動の場や機会が確保され、活動の成果を生かし、みんなが成長できるまちになっています。

伝統的な地域文化の継承や新たな文化の創造と発信により、文化芸術に親しむ人が増え、みんなが文化・芸術に出会えるまちになっています。

### (修正後)

#### 3 地域で学びあひ、活動し、交流しているまち

主な分野：市民活動、コミュニティ、生涯学習・社会教育、文化

みんなが、互いの個性を認め、人権を尊重し合い、交流しながら、平和で心豊かに安心して暮らせるコミュニティが形成されています。

地域の中で活動する団体や人がつながり合い、支え合えるしくみがあり、これによって、新たに活動する人が増えていく多世代共生型コミュニティが実現しています。

生涯学習・社会教育活動、**スポーツ**の場や機会が確保され、活動の成果を生かし、みんなが成長できるまちになっています。

伝統的な地域文化の継承や新たな文化の創造と発信により、みんなが文化芸術に出会ひ、**楽しみ、さらに文化芸術を創り出せる**まちになっています。

- ➡ 委員意見を踏まえ、「文化芸術に出会ひ、楽しみ、さらに文化芸術を創り出せる」を追加。前段に「創造と発信」とあることから「さらに文化芸術を創り出せる」としている。また、「楽しみ」の中に「文化芸術を親しむ人が増え」は含まれていると考え削除。

(修正前)

4 みんながいきいきと働き、活気と魅力あふれるまち

主な分野：産業振興、都市農業、観光

事業者や大学・地域など多様な主体との交流や連携などを通じて、イノベーションが生まれ地域産業が成長するとともに、職住近接などの多様な働き方が実現し、働きやすく活気と魅力のあるまちになっています。

都市農業が持続し、農地の持つ多面的な機能を活かすため、農業者と市民が協力しています。

市民や市民団体、事業者が協力し、地域にある資源を活かしたまちの魅力づくりと発信によって多くの人が集い、賑わっています。

(修正後)

4 みんながいきいきと働き、**集い**、活気と魅力あふれるまち

主な分野：産業振興、都市農業、観光

事業者や大学など**地域の多様な主体が交流し、連携することを通して**、イノベーションが生まれ地域産業が成長するとともに、**みんなが多様な働き方を実現することで**、働きやすく活気と魅力のあるまちになっています。

農地の持つ多面的な機能を活かすため、農業者と市民が協力し、**都市農業が持続しています**。

市民や市民団体、事業者が協力し、地域にある資源を活かしたまちの魅力づくりと発信によって多くの人が**訪れ**、集い、賑わっています。

- ➡ 一行目：審議会での意見を踏まえ、文章を整理。
- ➡ 二行目：主語を追加し、簡潔な表現に変更。
- ➡ 二落目：都市農業の持続を目的とした表現から、結果として都市農業が持続している表現に変更。
- ➡ タイトルと最終段落：市内だけでなく、外からも集まってくる表現に変更。

(修正前)

5 みんなが安心して快適に住み続けられる多様性があるまち

主な分野：都市づくり、交通、防災、防犯、住宅

これまでのまちづくりを踏まえながら、地域の在り方の変化に合わせて、将来を見据えた多様性があるまちへと再編されています。

自然災害などに備えて維持更新や強靱化された都市基盤施設と、市民や地域、行政の助け合いにより、災害や犯罪などから守られ、安全で安心して暮らしています。

住みやすく多様な世帯に対応した良質な住環境や交通ネットワークが形成され、みんなが生涯にわたり安心して住み続けられるまちになっています。

(修正後)

5 みんなが安心して快適に住み続けられるまち

主な分野：都市づくり、交通、防災、防犯、住宅

これまでのまちづくりをもとに地域の在り方の変化に**対応できる**、将来を見据えたまちへと再編されています。

**自然災害に備えて強靱化され、適切に維持更新されている**都市基盤施設と、**市民や地域による助け合いや行政の支援**により、災害や犯罪などから守られ、安全に安心して暮らしています。

多様な**ライフスタイルや家族形態**に対応した良質な住環境や交通ネットワークが形成され、みんなが安心して**いきいきと暮らし**続けられるまちになっています。

- ➡ 審議会での意見を踏まえ、「多様性がある」を「対応できる」に変更するとともに文章を整理。
- ➡ 二段落目：都市基盤施設の強靱化と維持更新は目的が異なるため文章を整理し、表現を変更。
- ➡ 審議会での意見を踏まえ「多様な世帯」を「ライフスタイルや家族形態」に変更。
- ➡ 委員意見を踏まえ、将来都市像からの流れから「住み」を「いきいきと暮らし」に変更。

(修正前)

6 地球にやさしく、水とみどりとくらしが調和したまち

主な分野：環境

すべての生命が活動する土台である地球環境を守るため、みんなが環境問題を自分事として捉え、2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて行動しています。豊かなみどりと親しみのある水辺環境を保全・創出するために、自然環境を支える人材が育ち、生物の多様性が維持されています。

また、持続可能な循環型社会への転換を目指し、それぞれが環境への負荷が少ない生活をしています。

(修正後)

6 地球にやさしく、水とみどりとくらしが調和したまち

主な分野：環境

すべての生命が活動する土台である地球環境を守るため、みんなが環境問題を自分事として捉え、2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて行動しています。自然環境を支える人材が育ち、豊かなみどりと親しみのある水辺環境が保全・創出され、生物の多様性が維持・向上されています。

また、持続可能な循環型社会への転換を目指し、みんなが環境への負荷が少ない活動をしています。

- ➡ 一段落目：文章を整理するとともに、ネイチャーポジティブの考え方を反映。
- ➡ 最終段落：「生活」よりも対象が広がる「活動」に表現を変更

## 第6章 行財政運営の基本姿勢

➡担うべき基本的な業務やセーフティネットをしっかりと維持していく責務について記載

行政には、不確実な時代の中にあっても、担うべき基本的な業務やセーフティネットをしっかりと維持していく責務があります。

そして、その責務を果たしていくためには、たえず社会の動きや市民生活の変化などに目を向け、臨機応変に対応できる柔軟性とスピード感を併せ持つことが求められます。加えて、セーフティネットの維持にとどまらず、未来を志向して、将来都市像や分野別の目指すまちの姿を実現するためには、人口減少・高齢化の進行などに伴う税収の減少や社会保障関係経費の増加、公共施設・都市基盤の更新などを見据えて、限られた社会資源を効率的・効果的に活用して、持続可能な行財政運営を行っていかねばなりません。

こうした状況を踏まえ、次のことを行財政運営の基本姿勢とします。

### 【関連する委員意見】

○ セーフティネットが確実に機能していく計画であるべき

➡そのうえで、「持続可能な都市経営」で記載した、気候変動をはじめとする環境問題や少子化・高齢化などの諸課題、デジタル技術等の進化と活用の潮流などの社会情勢の変化に加えて、行政を取り巻く以下の状況を踏まえて、「デジタル技術等の活用」、「職員の人財育成」、「公共施設等のマネジメント」、「多様な主体とのパートナーシップ」の4項目に整理。

- 2030年代には国民の3人に1人が高齢者になると言われており、本市においても高齢化の更なる進行に伴い、社会保障関係経費が引き続き増加していくことが見込まれる。
- 今後10年の間には、大型施設を中心に多くの公共施設等が更新時期を迎えるため、世代間負担の公平性の観点に加えて、財政収入と支出の年度間調整の観点などからも借り入れ（起債）を増やして対応せざるを得ない状況が見込まれる。
- 国による全国一律での制度拡充などの中には、地方交付税で財源が措置されるものもあり、地方交付税不交付団体である本市は、今後の国の動向により、新たな財政負担を強いられることも考えられる。
- 歳入面では、生産年齢人口の減少に伴う個人市民税の減少については、これまでの企業誘致等による法人市民税や固定資産税、中でも償却資産税の増などによりカバーしてきた面はあるが、ふるさと納税の定着による個人市民税の流出をはじめ、東京一極集中の是正の名の下で行われる国の施策によってさらに減収になることもあり、市税収入についても厳しく見通さざるを得ない状況が続く。

#### 【デジタル技術等の活用】

市民の一人ひとりがそれぞれ幸せに暮らせるように、市民の満足度や受け取る価値の最大化をサービスの起点とすることが重要です。現状のサービスを前提とするのではなく、あらゆる分野において未来のあるべき姿を想像し、その姿を実現するためのサービスを創造していきます。そのために、デジタル技術等を活用し民間との連携強化を図り、限られた財源の適正な配分を行うことにより柔軟で変化に即応した行財政運営を推進します。

#### 【職員の人財育成】

複雑化・多様化する行政課題に対応していく上では、職員の能力向上は重要です。正確・迅速・丁寧な行政サービスを継続し、柔軟性、スピード感を持って確実に対応していくことのできる人財を育成していくとともに、働き方や登用を多様化することで、人口減少社会にあっても限られた人員の中で業務を効率的に行っていく体制整備を進めていきます。

#### 【公共施設等のマネジメント】

都市基盤等を含む公共施設等については、将来人口や中長期的な財政見通し、市民ニーズの変化を踏まえ、施設の機能や管理・運営手法の見直しなどにより、維持管理コストの縮減を図っていきます。また、財産を大切に長く使用するという視点を基本に予防保全を行う等の長寿命化対策を講じながら計画的に施設更新を行うことで財政負担を平準化し、施設の安全性・機能性を確保します。

#### 【多様な主体とのパートナーシップ】

今後は、今まで以上に単独の自治体だけでは対応できないような課題に直面していくことが予想されます。そのため、広域的な課題については、多摩地域の自治体や東京都、国など行政間の連携で、地域的な課題については、市民、NPO、市民団体、事業者や大学等とのパートナーシップで解決すべく、柔軟な組織運営を行います。

※人財：職員を経営上の一資源として捉えるのではなく、「組織の財産」であり「市民の財産」となりうる財産として捉えること。多摩市では職員の育成にあたっては“「人材」から「人財」へ”を基本的な考え方としている。